

## 【 巻 頭 言 】

## 50年の歴史と新しいページ

日本熱測定学会 会長  
大阪大学 中澤 康浩



明けましておめでとうございます。熱測定学会の会員ならびに関係の皆様にとって令和5年が良い年となるよう心よりお祈り申し上げます。新型コロナのパンデミックによる様々な制約が緩和されつつあります。行動制限がなくなり、都道府県をまたぐ移動や海外への渡航も可能になっております。今年は、お正月を故郷で過ごされた皆様も多いのではないのでしょうか。大学や会社をはじめ社会全体が、通常の生活にもどりつつありますが、一方で、コロナウイルスそのものは、まだまだ猛威を振るっております。変異を繰り返しながら少しずつ特徴をかえ、弱毒化しながらも感染力は強くなっています。この傾向は、令和5年も続いて行きそうです。この年末年始も第8波の中にあり、これから始まる入試等、心配な点も多々あります。交通機関の中や、大学の講義、会議でもマスクが手放せない状況で、新型コロナウイルスとの共存が続きそうですが、長い閉塞感からの明るい兆しが見える中にある事は感じております。

そのような状況下でしたが、昨年10月26日(水)から10月28日(金)にWebexを用いたオンライン形式と会場からのハイブリッド形式を組み合わせたかたちで第58回熱測定討論会が開催されました。討論会に先立ち、10月25日(火)、26日(水)には学会主催の国際シンポジウムVirtual International Assembly on Calorimetry and Thermal Analysis (VIACTA2022)がオンライン形式で行われました。シンポジウムではアジア、ヨーロッパ、アメリカの各地から多くの研究者にご参加頂き、最新の研究成果を通して議論する機会を得ることができました。また10月26日の討論会初日は、早稲田大学に会場を設け、現地会場でのオンサイトでの参加とハイブリッド配信を行いました。40-50名程度の方が現地参加され、久々に対面での発表とホットな議論を行うことができました。実行委員長の川上先生、山口先生はじめ非常に大変な準備を行って頂いた実行委員、事務局の皆様、ご協力頂いた企業の方々に御礼申し上げます。国際シンポジウムには220名、討論会には155名の方にご参加頂き、非常に密度の濃い4日間になりました。ハイブリッド講演、インターラクティブセッションでは、コロナ禍の中でも、特に若い皆様の研究に対する熱意を感じました。国際シンポジウムでは、2年間中断になっていた日中合同シンポジウム(CATS)のセッションが設けられ、中国の先生方とも画面を通してですが再会し議論をすることができました。徐々にですが、国際活動の再開と対面での学会活動への回帰が進んでいることは実感しております。令和5年度の第59回熱測定討論会は日本大学において対面主体で行う予定です。また、7月30日から8月4日には、海外からも沢山の研究者にご参加頂きながら、第26回IUPAC化学熱力学国際会議を熱測定学会が日本学術会議との共同主催で開催する予定です。来日を楽しみにされている海外の方も沢山おられますので、会員に皆様も研究成果の発表と、海外の先生方との再会を是非楽しみにして頂ければと思います。オンラインで開催した日中合同シンポジウムも2023年9月22日から24日に、中国の山東省で現地開催が予定されています。熱測定学会開催の会議以外で

も、今年は、海外で多くの会議が現地開催されるかと思えます。大学院の学生さんは若手支援の制度なども、是非ご活用ください。

本年最初のこの会誌No.1号から、「熱測定」の巻数(Vol.)が50となります。熱測定誌が発行されてから50周年という記念すべき年を迎えました。日本熱測定学会はその母体である熱測定研究会(1969年に発足)から始まり1973年に正式な学会組織となりました。1974年から会誌「熱測定」のVol.1発行を開始しました。積み重ねてきた歴史が、本年、半世紀に達したこととなります。熱測定誌は、様々な熱測定の装置や解析手法、新しい発想や知見に基づく先端研究の解説記事、さらに連載講座など熱に関わる多くの研究者や分野外の人にもヒントとなる沢山の原稿の蓄積もっています。論文ジャーナルでも50年続くことは難しい中で、これまで会員の皆様、諸先輩が積み上げてきた財産が、我が国の学術研究にとって貴重な文献資料になっております。昨年度の幹事会では、編集委員長の松木先生を中心に議論を重ね、この機会に熱測定誌の文献としての価値を再認識し、会員の皆様にもよりアクセスし易くするために、J-STAGEへの掲載を進めてきました。以前にJSTでオンライン化事業として多くの学会誌等を初刊から電子化する作業が進められてきましたが、予算終了で事業が打ち切りになった際に、熱測定誌は学会のHPに掲載するかたちを選びJ-STAGE掲載は止まっておりました。昨今、電子ジャーナルの普及で、DOI番号等で参考文献にリンクを貼ったり、文献にも引用や検索履歴をつけたり、researchmap, ORCIDなどで研究業績をたどる事が求められる機会も増えてきました。是非、全巻通してDOI番号がつき、アクセス性の高いJ-STAGE掲載を進めようということになり編集委員会と事務局で新規登録と欠巻の掲載作業を行って頂きました。熱測定エクスプレスでもアナウンスされているように、現在、会員の皆様にはすべての記事閲覧できるようになっております。一方で、HPからのダウンロードも必要とのご意見もあり、しばらくは双方から見る事が可能にしております。ご意見等ございましたら幹事会にお寄せください。

昨年10月の総会の際にもご報告させて頂きましたが、学会の財政が長らくの赤字状況からようやく黒字へと回復いたしました。コロナによる討論会、講習会、各種会合のオンライン等による合理化が効いていることが大きく、コロナ禍の大変な状況下でご担当頂いた、各行事担当の先生方や幹事、事務局の皆様のご努力に御礼申し上げます。一方で、オンラインばかりでは出来ないことも沢山あることが講習会や秋の討論会の熱気からも判ってきました。講習会、討論会、各種国際活動などを含めて、本年はニューノーマルへの転換期になる年にもなるかと思えます。ロシアのウクライナへの侵攻、世界的な物価高、エネルギー不足など心配の種は尽きませんが、熱測定学会は50周年の歴史の上に、新しい時代のページが開けていけるような年になればと思います。